

One Welfareを目指す法獣医学の動物の中毒分析の基盤構築

北海道大学大学院獣医学研究院毒性学教室

北海道大学大学院獣医学研究院毒性学教室は、動物の中毒の分析の体制を整備し国内における動物の中毒原因の分析を実施することで、日本の法獣医学領域で最後のピースとなっていた動物の中毒分析の受け入れ機関を目指しています。

【活動背景】

日本には動物の中毒の分析や解析のための機関が設置されておらず、これまでは日本中毒センターがその相談機能を担っていました。しかし、獣医学領域において中毒の分析機能を持つ専門機関の必要性やこの分野の教育の重要性が指摘されています。動物虐待を立証するためにも獣医学領域において、これらの化学・科学的データの基盤の整備は動物福祉に関する喫緊の課題です。

【活動目的】

国内で発生する動物中毒について、中毒原因がわからないノンターゲットの化学分析を実施できる体制を整備し、国内で発生する動物の中毒の原因を同定することが目的です。また、化学分析による動物の中毒学の基盤となる「法獣医学」について、長期的視野に立った人材育成をすることも目指しています。

【助成金の用途・活動結果】

助成金は、化学分析の前処理のための人材を雇うための人件費や、化学分析用のPC、司法解剖に用いる消耗品、現場検証のための旅費に使用していただきました。結果、27都道府県から依頼を受け、1年間に2300検体の分析を行いました。また鳥類を中心に鉛分析を行い、鉛の規制に必要なデータを提供しています。

啓発活動としては、シンポジウムを3回開催しました。現在、北海道警察をはじめ、様々な公的機関からも法獣医学としての依頼を受けています。



【団体からのメッセージ】

法獣医学は日本でもまだ黎明期の分野です。我々の中でも「動物の中毒」の解決のために活動を続けてきました。また、法獣医学的な分析だけではなく、どんな毒物で動物が中毒になるのか、その感受性に動物の種の違いはあるのかなど、毒性発現のメカニズムも研究しています。私たちの研究室では、ペット動物に限らず、野生動物、動物園動物等、幅広い動物種を扱っています。法獣医学の研修会も開催しておりますので、動物の中毒の解決に興味がある学生や社会人の皆さん、是非、ご参加ください。

